



訪問しました!

こうべ男女いきいき事業所

ネスレ日本株式会社

今回は、平成22年度の「こうべ男女いきいき事業所」のひとつに表彰されたネスレ日本株式会社を訪ねました。同社は世界第一位の売上げを誇る食品・飲料メーカーの日本法人。グローバルな視点ときめ細やかな取り組みで、仕事と家庭の両立支援を進めています。

ダイバーシティ マネージャー もりさだのり 森貞律さん
コミュニケーションズ&コーポレートアフェアーズ本部
食生活デザイン室 室長 かおり ハンクス香里さん
人事総務本部 採用研修部 みながわやすのり 皆川泰範さん



左から皆川泰範さん、森貞律さん、ハンクス香里さん

目指すは“ワークライフハーモニー”

「GoodFood GoodLife」をスローガンに掲げるネスレ日本株式会社。社員一人ひとりが持ち味を生かし、いきいき働いて力を発揮する「ダイバーシティ」(多様性)を目指す環境づくりが進んでいます。

「男女がともに活躍できてこそ、魅力と競争力のある組織になる。短期間で成果の出るものではありませんが、着実に進んでいる実感があります」と話すダイバーシティマネージャーの森貞律さん。

取り組みは、意識改革と制度整備の二本柱。管理職の意識を変えるワークショップや、小学3年生の終わりまでの短時間勤務制度、育児・介護のための在宅勤務制度、男性社員が10日間まで有給で取得できる育児休業制度など、多面的に展開しています。

労働時間に柔軟性を持たせるため、コアタイムのないフレックスタイムや時間の長短を選択できるフレキシブルな昼休みを設定。「週末は金曜の17時45分から」を合い言葉に金曜日の定時退社を促したり、記念日に合わせて有給休暇の取得を勧めるキャンペーンも行っています。

「土台にあるのは、“ワークライフハーモニー”という考え方。どの社員にも、仕事と家庭が美しいハーモニーを奏でてもらうのが最大の目的です」と森さんは笑顔を見せます。

昨年夏に2人目のお子さんが生まれた皆川泰範さんも、有給育児休業制度を利用した一人。「お宮参りに出かけたり、上

の子の幼稚園の説明会に行ったり、家族で過ごす時間をゆっくり楽しみました。妻も喜んでいましたね」と振り返ります。採用や研修を担当しているため、自ら率先して体験することでどんどん後に続いてほしいと願ったそうです。

独自の「メンタリングプログラム」もスタート

こうした取り組みのほか、同社独自の手法を用いた「メンタリングプログラム」も昨年スタート。女性の人材育成のためのコーチングに加えて、同社の役員や管理職が「メンター」として若手女性社員にマンツーマンで付き、キャリア形成の支援をする6カ月のプログラムです。

「支援を与える“メンター”と支援を受ける“メンティ”は、普段の仕事のうえでは関わりのない者どうしを組み合わせます。メンティ自身がこの先どういうキャリアをつくりたいかを考え、メンターはそのための気づきを促す存在です」と、担当するハンクス香里さんは話します。豊かな経験を持つメンターを通して、メンティは将来のビジョンや方向性を明確にしていけるのです。

「働きやすく、そして働きがいのある会社へ。今後もさまざまな面から考えていきたいと思います。女性が働きやすい会社は男性にも働きやすい会社ですから」と森さん。「当社の商品は女性が購入することが多いこともあって、女性社員の力がもっともっと必要なのです」。

男女の区別なくいきいきと働ける企業を目標に、同社の先進的な取り組みは続きます。